

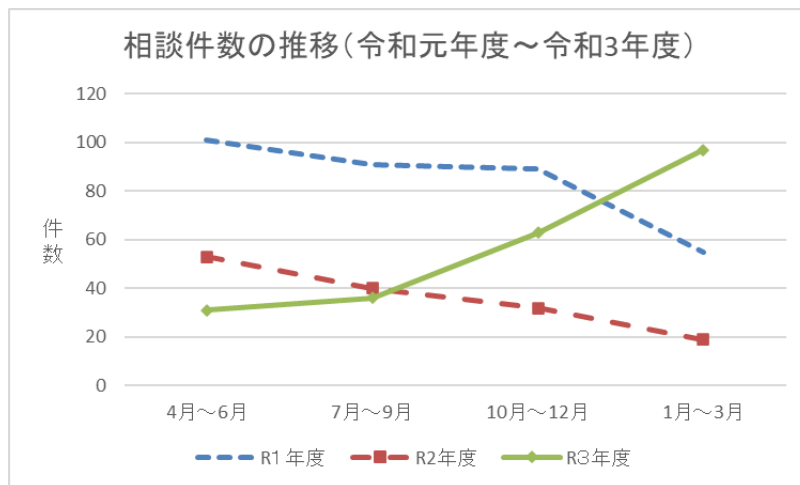
令和4年5月2日

## 神出病院の現状について

医療法人財団兵庫錦秀会  
神出病院

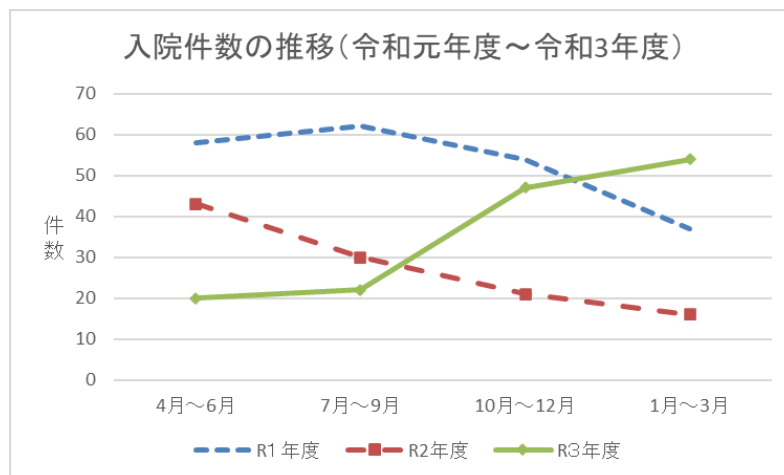
### 1. 神出病院における新規入院相談件数の推移について

令和元年度より新規入院相談件数は減少傾向にあったが、令和3年度6月頃より増加に転じている。これは、第三者委員会の設置や改善計画書に基づいた再生への取り組みの結果によるものであると思われる。



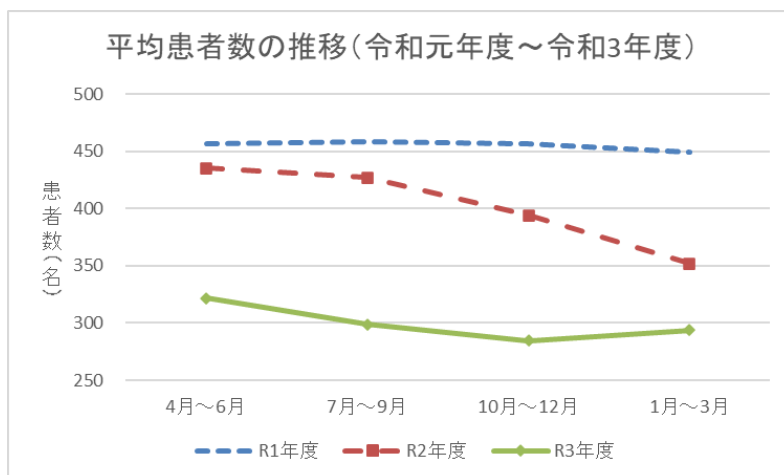
### 2. 入院件数の推移について

相談件数の増加に伴って、新規入院件数は増加傾向にある。疾患分類に関しては、令和3年8月までは統合失調症、認知症、内科疾患合併症の患者様が中心であったが、現在は気分障害、発達障害、知的障害、アルコール使用障害など多岐に渡っている。



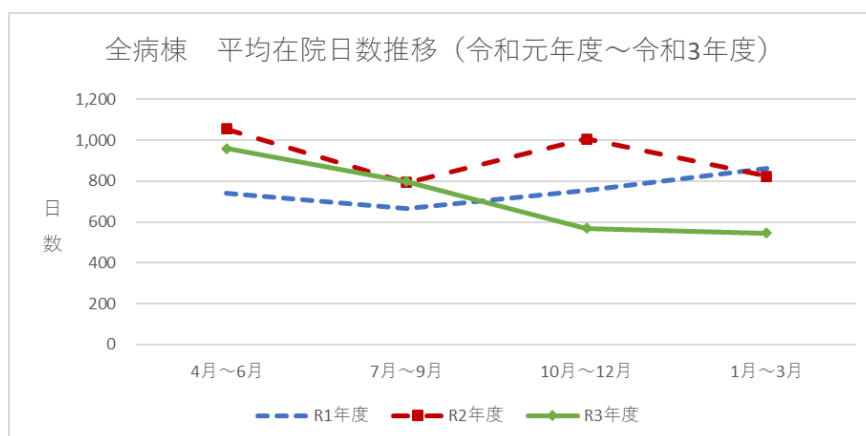
### 3. 平均在院患者数（稼働病床数）の推移について

令和元年度までは、平均在院患者数は 450 人を超え、高い病床稼働率を維持していたが、神戸市より業務改善命令が提示された令和 2 年 8 月より急激に減少した。一方、令和 3 年 11 月より少しずつではあるが増加に転じ、運営状況としては改善傾向にある。



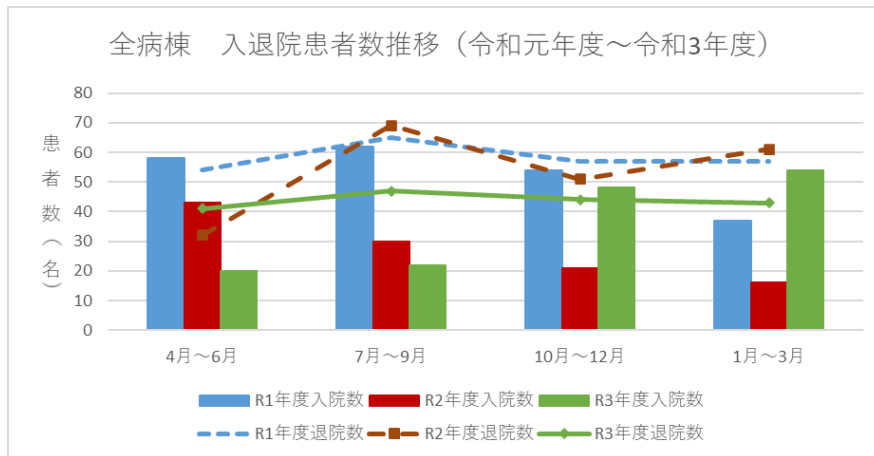
### 4. 平均在院日数の推移について

令和 2 年度には平均在院日数が 909.1 日であったが、令和 3 年 6 月より減少傾向になり、10 月には 460.4 日となった。令和 3 年度の平均在院日数は 686 日である。これは、当院が必要に応じて転院や退院支援を行っている結果と考えられる。



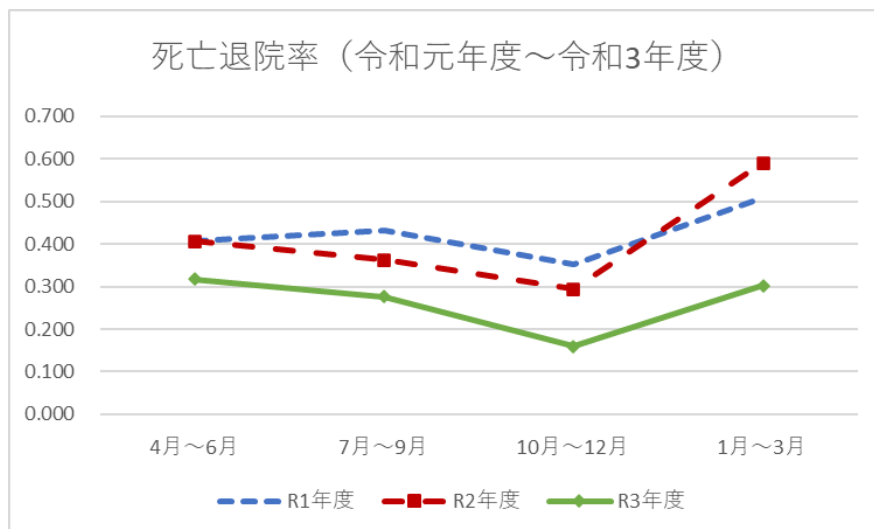
## 5. 入退院患者数推移について

入院患者数と退院患者数の推移を以下に示す。なお、令和3年度の退院患者数の減少は、在院患者数の減少によるものと考えられる。



## 6. 死亡退院率について

令和元年度において、退院患者数の中で死亡退院された患者様の割合は42%に達していたが、令和3年度8月より明らかに減少傾向にある。これは、平均在院日数の減少であげた通り、適切なタイミングでの転院や、病気の寛解による退院者が増加したためだと思われる。



## 7. 考察

現在当院は再生に向けて、健全で開かれた組織づくり、医療の質の向上、職員の意識改革、地域連携など、病院改革を行っている最中である。令和3年9月、令和4年3月には新型コロナウイルスの院内感染が生じたが、感染対策本部を設置し、職員が一丸となって封じ込めに力を尽くした。また、行政からの支援、近隣やグループ病院に協力をいただいたことによって、短期間で終息に至ることができた。今後もこういった地道な対応を続けていくことが信頼回復に向けて重要であり、患者様中心の良質な医療を行うために、真摯な態度で向き合っていくことが必要であると考えている。